

平成28年度 指導改善プラン

		達成度調査及び児童の学習状況から見た成果と課題		
		第4学年	第5学年	第6学年
結果の分析	国語	○話を聞き取る力や文学的文章を読み取る力が昨年度よりも身に付いている。	○全体的に伸びているが特に言語についての知識・理解が昨年度よりも顕著である。	○全般的に進んで取り組み、文学的文章を読み取る力が昨年度よりも大きく伸びている。
		▲短答式、記述式で条件の中で言葉を探し出す力に課題がある。	▲文学的文章の主題をとらえ、心情の理解をする力が十分に身に付いていない。	▲漢字・語句の知識や漢字の読み取りを行う力に課題がある。
	社会	○社会科全般に対して興味・関心が高く、調べてみたいと思う気持ちがとても高い。	○都道府県名とその正しい位置についての理解が昨年度よりもできている。	○グラフの意図を正しく読み取り解答することが昨年度よりもできている。
		▲地図記号を理解したり四方位を使って地図を読み取ったりする力が十分に身に付いていない。	▲資料を読み取り、選択したり記述したりする力に課題がある。	▲日本の国土や五大陸、海洋など知識として身に付けることに課題がある。
	算数	○教科総合と基礎的なところで昨年度をかなり上回っている。達成率は高い数値を記録している。	○数学的な考え方で伸びが見られた。また、進んで学習に取り組むので計算力が向上した。	○教科総合・応用・数学的な考え方が昨年度と比べるとかなり向上している。
		▲式による表現や重さに関する問題を解く力に課題がある。	▲問題を読み、理解して答える技能が十分に身に付いていない。	▲記述式など発展問題に対するの活用能力に課題がある。
理科	○教科総合では基礎問題、応用問題ともに達成率が高く、理解が十分である。	○学習内容について、教科総合では応用問題の達成率が高く、理解が十分である。	○問題解決学習を継続して行っているので意欲的に学習しようとする意識が高い。	
	▲基礎的な知識を活用し、応用問題に取り組む力が十分に身に付いていない。	▲学習した知識を使い書いたり考えたりする力に課題がある。	▲学んだ知識を使って考えたことを書く力に課題がある。	
調査以外の教科についての成果と課題	○どの教科でも進んで授業に取り組もうとする態度が見られる。 ○積み重ねてきた記述力を使った学習感想などの質や量ともに向上している。 ▲自分の気持ちを作品に込めて表現する力。 ▲自分の思いを伝えたり友達の話の聞いたりする力			
成果と課題の全校としての傾向	○昨年度から着実に、国語の「書く力」が、確実に力が身に付いてきている。 ▲社会や算数、理科は上学年ほど、達成率が低下する傾向にある。			
昨年度「改善プラン」に基づく取組の成果と課題	○どの教科でも基礎・基本の定着を心掛けるとともに、身近な教材等を活用して学習を行った結果、児童の意欲を引き出し、進んで学習する姿が見られるようになった。 ▲問題文や資料などの読み取りを行い、それを20文字から40文字程度という短い文章で分かりやすく表現する力に課題がある。			
改善の方針	・ 答えを導き出す時に必要な「キーワード」を見つけたり考えたりして、それを表現することを授業で繰り返し行っていく中でより確かな理解の定着を図る。 ・ 社会科や理科は問題解決学習を継続して取組、算数は具体物や半具体物などを用いた活動を取り入れていく必要がある。			
学校としての改善の取組	・ 今までの校内研究の成果を生かし、低学年の国語で「書く力」を身に付け、そこで学んだ書く順序や構成の組み立てを中学年や高学年の社会科につなげる指導計画を組み立てる。 ・ 昨年度同様、算数における少人数指導や習熟度に応じた指導を取り入れる。また、それぞれの学習集団にあった学習展開を行い、必要に応じて深い思考力を必要とする発展的な問題にも取り組ませる。 ・ 「学校便り」などの通知や保護者会の場で家庭との連携を一層強化する。			
教員の改善の取組	○各教科で達成度調査の分析を基にした「指導改善プラン」を作成し、研修全体会を通じて共通理解し、2学期以降の授業の改善を行う。 ・ 授業の始めの時間を利用して、漢字書き取り小テストや東京ベーシックドリルなどの基礎基本のプリント、デジタル小テストなどを行う。 ・ 年間指導計画や評価計画を見直し、算数少人数担当との連携を十分に取ながら多方面から児童を支援する。			
検証方法	・ ノート・ワークシートの記録から問題解決の思考過程や児童の変容をつかむ。単元や小単元ごと、又は年度末に達成度の調査をし、習得状況を把握する。			